

令和7年4月1日

令和7年度 港区立東町小学校学校経営計画

～「安全・安定・安心」の小学校の教育活動 保護者・地域とともに～

港区立東町小学校
校長 川原 哲郎

I 学校教育目標

本年度、本校は112周年を迎える。その歴史と伝統によって培われてきた建学の精神と校風を継承するとともに、社会や時代の変化に対応できる新しい学校づくりに努めていく。

「港区教育ビジョン」の目指す子どもの姿「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」の実現に向け、教育内容のより一層の充実に努め、児童の可能性を最大限に伸ばす教育活動を展開し、児童・保護者・地域の期待に応えるため、学校教育目標を定め、徳、知、体のバランスの取れた教育活動を行う。

○明るい子

自分のよさを肯定的に認めて自信をもつとともに、友達のよさや痛み、喜びを認めながら互いを尊重し、すすんでかかわろうとする子を育てる。

○よく考える子

知識や技能を確実に習得するとともに、友達とかかわりながら問題を見出し、これを主体的に解決する活動を通して思考力や判断力、表現力を身に付け、自ら概念を獲得したりこれからの自分のありようについての考えを広げたり深めたりすることができる子を育てる。

○やりぬく子

自分の心身の健康や成長に関心をもち、目標をもって、自ら体力の向上や健康の保持・増進に努めて生き生きと活動し、最後までやりぬくことができる子を育てる。

○思いやりのある子

多様性を認め、他者理解を深めるとともに、協働的に活動することができる子を育てる。特に「いじめは絶対に許さない」ことを中核に据える。

II 経営方針

1 目指す学校像

○子どもたちが安全で安心して過ごすことができる学校

- ・子どもたちが学校に来て嬉しいと思える、明日も学校に来るのが楽しみと思える。
- ・子どもたちが心の安全性を感じられる。

○子どもたちがいきいきと楽しく学ぶことができる学校

- ・「学習して楽しい」「考えることが楽しい」「友達といることが楽しい」と実感できる。
- ・「自分は変わった」「もっと成長したい」と考えられるようになる。

○保護者や地域に信頼される学校

- ・地域の中の学校として、地域人材の活用、地域の教材化など、積極的に地域を活用する。
- ・一人ひとりの児童を大切にした教育を行い、自尊感情、自己有用感を高める。
- ・保護者との連携を密にし、保護者の期待に応える。

○教職員がやりがいを感じられる学校

- ・教師一人ひとりが、個の力を発揮でき、達成感を味わうことができる。
- ・教職員一人ひとりが学校経営に参画し、組織的な取り組みを行っていく。

これらの実現のため、『トリプル A(安全・安定・安心)の学校』をつくる。

トリプル A (安全・安定・安心) の学校

安全	安定	安心
<ul style="list-style-type: none"> ○登下校の安全 <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室 ・セーフティ教室 ・スクールサポーターとの連携 ○授業中の安全 <ul style="list-style-type: none"> ・安全計画と安全指導 ・安全面の配慮 ○休み時間の安全 <ul style="list-style-type: none"> ・看護体制 ○給食の安全 <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応 ○校外学習の安全 <ul style="list-style-type: none"> ・事前の安全指導 ・安全体制 ○震災等の安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・地域防災訓練 ○感染症の安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導 ・うがい、手洗い、換気の徹底 ・適切な情報提供と家庭との連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ○安定した学級経営 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活ルールの定着 ・共感的理解に基づいた生活指導 ・失敗を許せる雰囲気づくり ○安定した授業 <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の徹底 ・基礎・基本の定着 ・主体的・対話的で深い学びの授業 ・ICTを適切に活用した授業 ・国際理解教育の充実 ・環境教育の充実 ・健康教育の充実 ○安定した学年経営・専科経営 <ul style="list-style-type: none"> ・学年主任・専科主任を中心とした連携 ○安定した友達関係 <ul style="list-style-type: none"> ・互いに認め合える関係 ○安定した先生と児童の関係 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の話を聞く先生 ・納得して行動する児童 ○安定した先生と保護者の関係 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有 ・気軽に相談できる体制 ○安定した職場環境 <ul style="list-style-type: none"> ・職層に見合った働き方 ・Frog Day 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が安心して通える学校 <ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる先生と何でも話せる友達 ・分かる授業 ・楽しい授業 ・いじめの未然防止に取り組む体制 ○保護者が安心して任せられる学校 <ul style="list-style-type: none"> ・何でも相談できる先生 ・豊かな人的教育環境 ○先生が安心して教育活動を行える学校 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域の理解と協力 ○地域が安心して誇れる学校 <ul style="list-style-type: none"> ・地域へ出る・地域を呼ぶ授業 ・六本木アカデミーによる幼・小中一貫教育の推進(カリキュラム連携) ・オリンピック・パラリンピック教育(レガシーの構築)

2 目指す児童像

- 自己肯定感をもち、友達を認めすすんで関ろうとする子
- 知的好奇心をもち、すすんで学び、自分の考えをもって表現する子
- 健康な心と体をもち、生き生きと活動し、目標に向かって粘り強く取り組む子
- 思いやりのある豊かな心をもち、自他を大切にする子

3 目指す教師像

- 人権尊重の精神を基調に、体罰・いじめ・差別のない学校づくりに努める教師
- 研究と修養に努め、子どもの可能性を伸ばすプロ意識のある教師
- 組織の一員として、協働体制で職務に当たる教師
- 教育公務員としての自覚と誇りをもち、サービスの厳正に努める教師

4 学校経営理念(基本的な考え方)

(1) 経営理念

本年度、本校は112周年を迎える。その歴史と伝統によって培われてきた建学の精神と校風を継承するとともに、社会や時代の変化に対応できる新しい学校づくりに努めていく。

教育内容のより一層の充実にも努め、児童の可能性を最大限に伸ばす教育活動を展開し、児童・保護者・地域の期待に応える。

【判断基準】子どもたちのために

【方策】組織で、保護者・地域の方とともに
迅速・正確・丁寧・誠実・挑戦・感謝

(2) 基本理念に基づく学校経営の基本方針

① 生命尊重、人権尊重の教育の推進

- ・全教育活動を通じて生命の大切さを教え、共に生き共に学ぶ心の教育を推進する。
- ・全教育活動を通じて、児童相互・児童と教師の心の交流を深め、偏見や差別をなくし、不登校やいじめの防止・解決に努める。
- ・児童一人ひとりを大切にされた教育を行い、自尊感情、自己有用感を高める。

② 学びの集団の創造と学力向上

- ・授業規律を確立し、全ての児童に、秩序ある学習集団の中での学びを保障する。
- ・基礎基本の定着を図るとともに、一人ひとりの個性や能力を生かすように努め、児童が互いに高め合う豊かな学びを推進する。
- ・児童の思いや願いを生かした学習を推進し、主体的な学び、対話的な学び、深い学びを実践し、学びの意欲を高める。

③ 学び続ける教師集団、協力・協働を大切にする教師集団の形成

- ・校内研究・研修の推進を図るとともに、自己の課題を明確にした授業改善に取り組み、授業力を高める。
- ・多様な校務を計画的に担当し、学校運営力・学校経営参画意欲を高める。
- ・年間計画に基づく週案を作成・提出し、教育内容の計画・実践・評価・改善に努める。
- ・組織の一員として、協働意識をもって職務を行う。

④ 連携・協力の推進

- ・保幼小中の連携・交流を推進し、小1問題、中1ギャップ等の未然防止に努める。
- ・学校だより、学校HP、X等を活用した情報発信に努め、学校公開、学校評価を実施する。
- ・学校周辺の環境や地域人材等を生かした教育活動を行う。
- ・家庭・地域と一体となって児童を育成するという視点に立つとともに、関係諸機関との連携により、課題の未然防止と解決に努める。

Ⅲ 経営目標

学校教育目標を達成するため、「中期経営目標」を設定し、これを達成するために具体的にどのような教育活動等を設定したらよいか考え、「短期経営目標」と具体的な活動を設定する。

その際、学習指導要領に示されている、子どもたちが身に付けるべき資質・能力及び、その実現を目指し授業改善の視点を踏まえて教育活動を行っていく。

＜子どもたちが身に付けるべき資質・能力＞

- ① 「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
- ② 「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」

＜授業改善の視点＞

- ① 学ぶことに興味や関心をもったり、見通しをもって粘り強く取り組んだりする「主体的な学び」
- ② 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えに触れるなどして、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」
- ③ 学習を通して得た知識を相互に結び付けて一層深く理解したり、情報を基に自分なりの考えを形成したりする「深い学び」

重点領域 1	豊かな心の育成（明るい子・思いやりのある子）	
中期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いが気持ちよく生活できる集団のあり方について理解促進を図る。 ・自分で考え、判断し行動できる児童を育成する。 ・自他を認める共生・協調の精神、郷土愛の育成を図る。 	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよいところを見付け、認め合える集団を育成する。 ・校内の共通理解を図り、時と場にふさわしい行動ができる集団を育成する。 ・他者とのかかわりを通して、思いやりの心や自己有用感、郷土愛を育成する。 	
項目	努力指標(教師側)	成果指標(子ども側)
1	全学級でいじめに関する授業年3回以上、5,6年生でSOSの出し方の授業を年1回行い、いじめの未然防止に努める。	友達のよいところを見付け、誰とでも仲よくすごすことができたという児童の割合85%以上。
2	自ら考え、時と場に応じた適切な行動がとれるよう指導する。(挨拶、移動、集合、時間など)	低:決まりを守って行動できた。 中・高:決まりを守り、自分で考えて行動できたという児童の割合85%以上。
3	地域と連携し、地域人材や施設、外部講師を招聘した学習、地域環境を生かした学習活動を各学年1回以上実施する。	地域の方や地域の施設・環境などに触れたりいろいろな人とのかかわりを通して学び、地域のよさや人とのかかわりのよさを感じられたという児童の割合85%以上。
<p>＜教育活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや教室移動、集合したときなど、時と場に応じた適切な行動がとれるようにする。 ・特別の教科道徳の一層の充実を図り、考え・議論する活動を通して、物事を多面的・多角的にとらえ、自分の生き方について考えられるようにするとともに、実践力を養う。 ・全学級で、いじめに関する授業を年3回、5,6年で「SOSの出し方」についての授業を年1回実施する。また、児童がいじめ防止に向けて主体的に取り組む活動を行う。 ・ファミリー活動(異学年交流)を通して、思いやりや感謝の気持ちを育てる。 		

・図画工作科での成果を中心に、年間を通して校内掲示・作品展示を実施し、一人ひとりのよさを発揮する場とするとともに、他の人のよさを感じる場とする。

・毎月、「人権教育の日」を設定し人権について考え、学校生活の改善を図りながら人権感覚を養う。

・地域と連携し、地域人材や地域の環境、施設を生かした学習、外部講師を招いた活動を各学年年1回以上実施する。

重点領域 2		授業改善と学力の向上（よく考える子）
中期経営目標	規律ある学習集団を築き、基礎基本を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を推進する。	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立と、基礎学力・活用力の定着を図る。 ・自分の考えをもつ時間と交流時間を設け、自己の考えの確立とその深まりを図る。 ・タブレットを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を追究する。 ・国際科の学習を中心にした、国際理解教育の充実を図る。 	
項目	努力指標(教師側)	成果指標(子ども側)
1	授業規律を確立し、児童の実態を把握した授業を行い、基礎学力の定着と活用力の向上を図る。	学習がよく分かるという児童の割合95%以上
2	1時間または単元の中に自分の考えをもつ時間、互いの考えを交流する時間を効果的に設定し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。	低：自分の考えをもち、友達の考えのよいところをみることができた。 中：自分の考えと友達の考えの同じところ、違うところを見付けることができた。 高：自分の考えと友達の考えの共通点、差異点に気づき考えを広げたり、深めたりできた。 とする児童の割合90%以上
3	タブレットを効果的に活用し、児童の主体的な学び、協働的な学びを推進する。また、複線型の授業に挑戦する。	タブレットを活用しながらすすんで楽しく学習を進め、理解を深めることができたという児童の割合90%以上
4	国際科の授業の充実を図り、楽しく英語によるコミュニケーションが取れるようにする。また、自他の国のよさが分かるような活動を行う。	低：国際科の学習を友達と関わりながら楽しくできた。 高：英語を使って友達や先生とコミュニケーションをとることができた。また、日本のよさや外国のよさを知り、理解を深めることができた。 とする児童の割合85%以上
<p><教育活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が授業におけるルールやマナーを共通理解・実践し、授業規律を確立する。 ・「読み・書き・計算」という基礎的な知識や技能の定着を図る。また、算数少人数指導(3～6年生)で習熟度別、個に応じた指導を実施し、基礎基本の定着を図る。 ・児童が学習課題を把握し、自分の考えをもつための時間、互いの考えを交流するための時間、また、言語活動を計画的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ・タブレット端末を効果的に活用し、個別最適な学びや協働的な学びを推進する。また、複線型の学習を実践する。 ・本に親しむ活動(東町30)を通して、読書活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす。 ・体験的な学習をはじめとする、多様な学習活動を設定し、児童の主体的な学び、課題解決学習に生かす。 		

・国際理解教育の充実を図るため、国際科の授業で習熟度別学習を取り入れる。外国語を使ってコミュニケーションを楽しんだり、日本文化を学ぶ時間(茶道・和太鼓・将棋)をとって日本の文化の理解をはかったり、大使館との交流を通して国際感覚を育んだりする。また、International Assembly を実施する。

・ピオトープや地域の自然環境を生かし、環境教育の推進を図る。

重点領域 3		心身の健康、体力・運動能力の向上(やりぬく子)	
中期経営目標		<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康・安全に興味関心を高める。 ・基礎体力と運動能力を高め、丈夫で耐性のある心身をつくる。 ・自分の健康を自分で管理する能力を高める。 	
短期経営目標		<ul style="list-style-type: none"> ・運動する習慣を身に付け、体力を向上させる。 ・健康であるために必要なことに目を向けられるようにする。 	
項目	努力指標(教師側)	成果指標(子ども側)	
1	1日1回以上は、外遊び、体育館遊びなど、体を動かして遊ぶことを指導する。	休み時間、校庭や体育館などで元気に体を動かせたという児童の割合85%以上	
2	1時間の体育の授業の中で、場の工夫、活動の展開、ルール等を工夫して運動量を確保し、体力向上を図る。	体育の授業で、十分に運動ができたという児童の割合90%以上	
3	体育の学習や短縄跳び、長縄跳びなど、目標をたて達成に向けて取り組めるよう指導する。	体育の学習や短縄跳び、長縄跳びなどで目標を立てて取り組み、目標が達成できたという児童の割合85%以上。	
4	手洗いやうがい、運動や食事など、自分の身体を健康に保つために必要なことを理解する。	自分の健康に気を付けて生活できたという児童の割合90%以上。	
<p><教育活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭で遊べる日には、「外に出て元気に遊ぶ」指導をする。 ・運動量の確保、運動の楽しさ、喜びを感じられるよう、体育科の授業を充実させる。 ・体育朝会での、チャレンジジャンプ(長縄)に全校で取り組む。 ・スポーツテストや、運動の記録をとることにより、自身の変容に気付かせる工夫をする。 ・ボルタリングを活用し、体幹、柔軟性などを向上させる。 ・食と健康の関係について理解させるため、給食の献立テーマなどで食育を行ったり、食農教育で食材についての理解を深めたりする。 			

IV 教育目標の達成を保障するための諸条件の整備

教育目標達成のため、以下の諸条件を整えていく。いずれも、地域の方々、PTA の皆様の御理解と御協力をいただくとともに、港区教育委員会とも密に連携を取りながら進めていく。

- (1) 一人ひとりの実態に応じた指導・支援の充実
子どもたち一人ひとりの特性を生かした教育を行うため、複数の目で子どもたちを見て、働きかけを行う。また、タブレット端末なども効果的に活用し、個別最適な学びの実現を図る。特別支援教室の活用、スクールカウンセラー(2名)やスクールソーシャルワーカー、スペシャルニーズアシスタント等を活用し、保護者の方々と連絡を密に取りながら、支援を行っていく。また、国際学級の充実・発展を図り、ESC 児童により適した教育を行っていく。
- (2) カリキュラム・マネジメントの実現
計画的に、複数の教科を一緒に扱ったり、教科等横断的な学習を行ったりすることを通して、子どもたちが学んだことを様々な場面で生かせるようにする。
- (3) GIGA スクール構想に基づいた取組
ICT を効果的に活用し、個別最適な学びや協働的な学び、複線型の授業を行うとともに、情報処理能力、情報モラルの育成を図っていく。
- (4) いじめ防止基本方針
「いじめは決して許さない」ことを念頭に置き、子どもたち一人ひとりが相手の立場や考えを理解しながら良好な関係を築けるようにする。一方で、「いじめはどこでも、だれにでも起きうる」ことを忘れず、保護者と連携を取りながら、未然防止、早期発見に努め、適切に対応する。
- (5) 複数の教員等での対応
本校は、学級担任、専科教員、特別支援教室担当教員、EST の他、多くの講師やスペシャルニーズアシスタント、介助員等が教育活動にかかわっている。また、高学年を中心に、教科担任制を行っていく。複数の教員等で子どもたちを見つめ、様々なよさを見出したり一層適切に対応したりしていく。
- (6) アレルギー対応等の一層確実な推進
子どもたちが、おいしく楽しい給食を安全に食べられるように、子どもたちの実態を把握し、保護者の方々に協力をしていただきながら、確実に推進していく。
- (7) 保幼小中一貫教育の推進
六本木アカデミー(六本木中学校、麻布幼稚園、南山幼稚園、麻布小学校、南山小学校、東町小学校)や近隣保育園、幼稚園との連携を深め、小1問題、中1ギャップ等の未然防止に努め、「円滑な接続」ができるようにする。
- (8) 環境教育の推進
各学年、学校ビオトープや学校周辺の環境を活用した教育活動を取り入れ、身近にある自然に目を向ける。みなエコプログラムなどを活用し、環境に良い持続可能な生活を考え実践できるようにする。
- (9) 学校運営協議会等の活用
学校運営協議会は、地域の方、保護者代表、学識者の方などから学校運営に関して広く意見をいただき、より円滑に学校運営ができるようにしていく場である。地域の方々、PTA のの方々等の協力をいただきながら、幅広い教育活動を行っていく。
- (10) 教職員の働き方改革
教職員が元気に、笑顔で子どもたちと向き合うことができ充実した教育活動が行えるよう、校務のシステム化や校務分掌を見直し会議の精選を行うなどして、教職員の働き方改革を推進する。